

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17485

研究課題名（和文）うつ病患者の家族に対する看護支援プログラムの有効性の検証

研究課題名（英文）Effectiveness of an individual supportive nursing approach for family members of patients with depression.

研究代表者

廣田 美里（Hirota, Misato）

神戸大学・保健学研究科・助教

研究者番号：70595488

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、うつ病患者の配偶者に対する、看護師主導の積極的傾聴による個別面接介入による、配偶者の心理状態と患者のうつ症状への影響を調査した。16組の夫婦が研究に参加した。配偶者の心理面の評価尺度のスコアは、介入後に顕著な変化はなかった。しかし、介入に対する配偶者の主観的な評価は肯定的であった。配偶者は自分の考えや感情を表現することができ、個別面接は有意義であったと述べた。さらに、介入後の患者のうつ状態のスコアは有意に改善した。本研究の結果は、配偶者に対する積極的傾聴による看護師主導の個別面接が、患者のうつ症状を改善するためのより良い環境を提供する可能性があることを示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では100人に約6人が生涯のうちうつ病を経験し、世界的には約3億人がうつ病に罹患しているといわれている。うつ病は、再発を繰り返し、慢性的な経過を辿ることも少なくない。患者は症状と付き合いながら生活を送ることに苦悩するが、ともに生きる家族もまた、患者とは異なる苦悩を抱えながら患者を見守っている。特に、うつ病患者のキーパーソンは、配偶者であることが多く、配偶者は患者の心理的ケアを行いながらも、様々な家族内外の役割を担う。しかし、うつ病患者の配偶者への支援は行き届いていないといえない。本研究は介入研究を通して、うつ病患者の配偶者に看護師が関わり、配偶者の思いを聴く場をもつことの重要性を示した。

研究成果の概要（英文）：The current study investigated the impact of an individual nurse-led active listening intervention for spouses of patients with depression on spouses' psychological states and patients' depressive symptoms. Sixteen couples participated in the study. Psychological measurement scale scores did not change markedly postintervention for spouses; however, their subjective evaluations of the intervention were positive. Spouses stated that they were able to express their thoughts and feelings and that the sessions were meaningful. Moreover, postintervention depressive scores of patients improved significantly. Findings suggest that the nurse-led intervention of active listening for spouses may provide a better environment for improving the depressive symptoms of patients.

研究分野：精神科看護

キーワード：うつ病 家族 配偶者 看護支援

1. 研究開始当初の背景

うつ病は再発率が高く、療養が長期化することは少なくない。そのため、うつ病患者の家族の負担は、心理面、身体面そして社会面におよぶ。家族の中でも、配偶者は、患者と長期にわたり生活をともにし、最も負担が大きいことが指摘されている。しかし、配偶者に対する専門職による支援はほとんどなされておらず、それどころか、専門職は配偶者に対して、「励ましてはならない」など、患者を支える家族としての望ましい態度を求める。それゆえ、配偶者は疎外感や孤立感を抱きやすいことが明らかにされている。

精神疾患患者の家族支援に関するナラティブレビューでは、家族の孤立感や負担感を軽減するために、医療保健専門職による、積極的傾聴による個別介入が重要な支援方法の一つであることが述べられている。しかし、私たちの知る限り、うつ病患者の配偶者を対象にした、看護師の積極的傾聴による個別介入の効果は報告されていない。そこで、本研究で介入研究を行い、その効果を調査することを目的とした。

2. 研究の目的

本研究は、うつ病患者の配偶者に対し、看護師が積極的傾聴による個別面接介入を行い、以下の2つの方法から、介入の効果を検証した。

(1) 介入前後に収集した、定量的評価と定性的評価から、介入による配偶者ならびに患者に対する効果を検証する。

(2) 個別面接での配偶者の語りのデータから、配偶者が看護師による積極的傾聴を受けて、どのような経験をしたかを現象学的に記述・分析し、配偶者に思いを語る場を設定することの意義について考察する。

3. 研究の方法

1 群事前事後比較試験のデザインで介入研究を実施した。日本の近畿圏内の3つの医療施設で外来通院中のうつ病患者とその配偶者のリクルートを行った。

個別面接介入の厳密性を確保するために、積極的傾聴の注意点について文書化し、面接時の指針とした。Rogers (1951) と、看護介入分類 (Bulechek et al., 2012/2015) の「積極的傾聴」の項を元に作成した注意点は以下の通りであった。1) 配偶者に対して否定や指示をしない、2) 配偶者に強い関心をもちつづける、3) 質問や投げかけにより、思いや感情の表出を促す、4) 表出されたメッセージや語りの背後にある考えを深く理解しようとする。また、面接を実施する看護師は、5年以上の看護師経験があり、研究の趣旨に関する90分のレクチャーを受けた者とした。

個別面接は、患者が通院する医療施設の一室で行った。面接回数は、うつ病患者家族の心理教育と看護師主導の心理療法的介入のレビューを参考に2~3週の間隔で計3ないし4回とし、約10週間にわたり実施した。1回目の個別面接の冒頭で、看護師は、研究目的をあらためて述べ、

配偶者が話し始めやすいように、「最初に奥さん/ご主人が調子を崩されたのはいつ頃ですか」という問いかけから始めた。その後は「研究に関係ないと思うようなことでも自由にお話しください」と伝え、自由に語っていただくよう心がけた。研究期間中、患者に対しては看護師による介入は行わず、患者は通常の治療を受けた。

得られたデータの分析方法は以下の通りであった。

(1) 介入前と介入後に、定量的評価と定性的評価を得た。配偶者の評価尺度は、Multidimensional Scale of Perceived Social Support (以下 MSPSS) の総得点と3つのサブスケール(' Family '、' Significant Other '、' Friend ')、Rosenberg's Self-Esteem Scale (以下 RSES)、Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9) であった。また、配偶者から、個別面接に対する主観的な評価を得るために、自由記述の質問を含めた、無記名の自記式質問紙調査を実施した。また、介入前と介入後に、患者の主治医あるいは臨床心理士が、Hamilton Depression Rating Scale (以下 HDRS) を用いて、患者のうつ状態の重症度を評価した。

(2) 語りを詳細に分析することを目的にインタビューを録音することについて、研究対象者の同意を得た。研究対象者5名のデータを分析対象とした。分析は、P. Benner のパラダイムケース法を採用した。ケースごとに、録音した音声を繰り返し聴き、逐語録を何度も読み込んだ。配偶者が語った内容の時制、登場人物、語り方(口調、表情、言いよどみ、唐突な話題転換など)、頻繁に用いられる単語などに着目しながら、各回のインタビューを意味の単位で整理し、複数のテーマに分類して、小見出しをつけ記述した。1人につき4回分の面談の記述を終えた後、語りがどのように変化してきたかに着目し、配偶者にとっての経験をまとめ、次の対象者の分析に進んだ。また、研究過程全体を通して、研究者の偏りを指摘するために、現象学を専門とする研究者のスーパーヴィジョンを受けて修正を繰り返した。最終的に配偶者の経験の本質的な構造を明らかにした。

4. 研究成果

(1) 16名の配偶者に対して介入ならびにデータ収集が完了した。統計解析の結果、配偶者のMSPSSのサブスケールのSignificant otherのスコアが介入前から介入後に有意に減少した($p = 0.049$; $d = 0.21$)。MSPSSの総得点とその他のサブスケール、そしてRSES、PHQ-9は介入前後に有意な変化はみられなかった。配偶者への自記式質問紙調査では、面接回数と面接時間については、配偶者全員が「ちょうどよい」と回答した。面接の形式については、15名の配偶者(94%)が「1対1の面接がよい」と回答した。自由記述を質的に分析した結果、「自分の話を聴いてもらったことに対する満足感」「看護師による個別面談の有用性」「家族支援に対する期待」の3テーマが導き出された。さらに、患者のHDRSのスコアは介入前と比較して介入後に有意な改善を示した($p = 0.001$; $d = 0.50$)。

(2) うつ病患者の配偶者が、看護師による積極的傾聴を受けた際の経験について、現象学的手法で記述・分析した。配偶者は、語ることによって、日常的に抑圧してきた自分の思いに気づき、自己の経験を振り返る機会としていた。配偶者は話しながら自身の思いや考えに気づき、徐々に

自己や患者との関係について言及するようになった。他方で、思いの表出の程度には、配偶者によりばらつきがあった。積極的に語る配偶者もいれば、個別面接の最後まで多くを語らない配偶者もいたが、いずれの配偶者も、それぞれの仕方と関係確立することで、患者を守ろうとしていた。

以上の結果から、うつ病患者の配偶者が抑圧的で助けを求めることが難しく、孤立しやすい心理と状況をふまえて、思いを表出する場を設定し傾聴することには意義があると考えられた。また、配偶者への介入が、患者のうつ症状の改善のためのよりよい環境を生み出す可能性が示唆された。本研究の介入が患者のうつ症状を改善するメカニズムを含め、介入の効果を明らかにするためには、対照群を用い、対象者数を増やし、より厳密な研究デザインでのさらなる研究が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Misato Hirota, Rie Chiba, Shinsuke Aoyama, Yoshihiko Hirano, Kengo Ichikawa, Chieko Greiner, Hirokazu Fujimoto, Kayano Yotsumoto, Takeshi Hashimoto	4. 巻 Jun 2
2. 論文標題 Individual Nurse-Led Active Listening Intervention for Spouses of Individuals With Depression: A Pre-/Posttest Pilot Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health Services	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3928/02793695-20230524-01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 村松佳奈、廣田美里、千葉理恵
2. 発表標題 うつ病患者の気分の波に対して配偶者はどのように工夫して関わっているのか
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会 第28回愛知大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣田 美里, 千葉 理恵, 藤本 浩一, 橋本 健志
2. 発表標題 うつ病患者の配偶者のソーシャルサポートに関連する因子の検討
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会第27回大阪大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴 美里, 廣田 美里, 千葉 理恵
2. 発表標題 精神科訪問看護師と保健師による精神疾患をもつ親の子どもへの支援内容と支援への認識
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会第27回大阪大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Misato Hirota; Risa Miura; Chiai Ukai; Hirokazu Fujimoto; Chieko Greiner; Takeshi Hashimoto
2. 発表標題 A mother's experience whose child became Hikikomori during puberty: A single case study.
3. 学会等名 The 7th Global Congress for Qualitative Health Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関